

論文審査の結果の要旨

氏名：諏 佐 典 生

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：高血圧症患者におけるカンサリデサルタンシレキセチル/アムロジピン配合薬とオルメサルタンメドキシミル/アゼルニジピン配合薬の検査値に及ぼす効果の比較：後ろ向きコホート研究

審査委員：（主査） 教授 相 馬 正 義

（副査） 教授 平 山 篤 志 教授 大 島 猛 史

教授 高 山 忠 利

高血圧治療においては、一種類の薬剤で降圧目標値に達する症例が少ないため作用機序の異なる降圧薬の併用が推奨されてきた。さらに、アドヒアランスの改善やコスト削減が期待できることから、近年、各種の配合薬が開発され、その使用頻度が増加している。特にアンジオテンシン II 受容体拮抗薬とカルシウム拮抗薬の配合薬は著明に処方頻度が増加している。しかしながら、これらの配合薬が臨床検査値に及ぼす影響について検討した研究は少ない。本研究は、日本大学医学部臨床データベースを利用し、高度な統計法を用いて、2種類の頻用されている降圧配合薬の臨床検査値に及ぼす効果を後ろ向きに検討したものである。カンサリデサルタンシレキセチル/アムロジピン配合薬（CAN/AML）とオルメサルタンメドキシミル/アゼルニジピン配合薬（OLM/AZ）服用患者を対象とし、傾向スコアマッチング法を用いて患者背景のバイアスを補正し、一般化推定方程式を用いて、服薬前後および両薬剤間に効果の差がないか検討した。結果は、両配合薬間に臨床検査上有意な差は認められなかったが、両薬の投与後有意な血清 Cr の上昇と eGFR の低下が認められ、両配合薬共に腎機能に有害な影響を及ぼす可能性を示した。以上の結果は、CAN/AMLおよびOLM/AZ配合薬の使用にあたって腎機能に留意する必要があるという臨床実施上重要な知見を示している。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

平成28年2月17日